■トピックス

指揮者のアンドリュー・デイビス

トロント交響楽団が来日 来年一月、NHKホールなどで演奏

モントリオール交響楽団、バンクーバー交響楽団と共にカナダを代表するトロント交響楽団が、来年一月来日する。一九六九年についで、二度目の日本公演。かつて小沢征爾氏（同楽団名誉指揮者）が小沢氏としては初めての音楽監督をつとめ、またバンクーバー交響楽団常任指揮者の秋山和慶氏がアシスタントあるいは客演指揮者としてタクトを振ったことのあるトロント交響楽団は、世界でも一流といわれ、日本人にもなじみが深い。

同楽団について、小沢氏は「エネルギーをもった、若い優秀なプレイヤーを集めている」ことに特徴があると評し、「トロント交響楽団のメンバーや最近入った人たちの中で、室内楽を作ったり、打楽器だけの合奏団、あるいはブラスだけの合奏団を作ったりして、それだけで演奏活動ができるという例がずいぶんある。これは他のオーケストラにはあまりみられない現象だ」と述べている。また秋山氏は、同氏にとってもやはり初めてオーケストラの指揮をしたというこの交響楽団を含むカナダの〝三大オーケストラ〟について、技術的に「北アメリカ全体を通じてかなりいいレベルにある」と述べている。

今回の日本での演奏会は、朝日新聞社と民主音楽協会の主催で、一月二十五（東京文化会館）、二十六（NHKホール）の両日行われる。

指揮はイギリス出身で、「最高の若手のホープ」（秋山氏）といわれるアンドリュー・デイビス。

原稿募集

カナダで生活したことのある方、現在カナダに住んでおられる方、日加関係にかかわっておられる方、カナダ研究をされている方などの寄稿を歓迎します。カナダでのご体験、カナダの諸分野に対するご感想やご意見、日加関係に対するお考えなどをお寄せ下さい。長さは四百字詰め原稿用紙で三枚もしくは六枚ていど。採用分については薄謝を差上げます。

コード人形劇が日本公演

一九七五年度アメリカ国際人形劇協会優秀賞、一九七七年度ポーランド人形劇祭最優秀賞などを受賞した「コード・カナダ人形劇団」が来日した。ルーマン・コード（出演）、アーリン・コード（美術）夫妻によるこの人形劇は、ルーマン氏が両手にはめた人形で人間愛を表現するもので、カナダで最も親しまれている人形劇のひとつ。東京、津山、名古屋、京都、加古川、大阪、札幌（十一月）の後、十二月一日札幌、二日旭川、四日仙台、六日水戸、八～十一日東京・ブーク人形劇場、十二～十三日東京・日仏会館ホールの各地で公演が予定されている。お問い合わせは、ブーク人形劇場（電話〇三―三七九―〇二三四）。

ミス日系カナダのモーナさん 親善旅行で各地を訪問

カナダの日系移住百年祭を記念して選ばれたミス日系百年祭、モーナ・カドナガさんが、懸賞の日本旅行で各地を訪問するほか、在日日系カナダ人のレセプションや百年祭写真展、スキー・プロモーションなど各種の催しものに参加している。カドナガ（門永）さんは、父親が鳥取県出身、母親が日系二世の大学生（専攻は生物学）。卒業後は病院の研究室で働きたいという。二十二才。

カナダ講座担当にロス教授

筑波大学と慶応大学で今年四月発足したカナダ講座は、九月からヨーク大学のネリス教授（専門・カナダ史）に代わってマウント・アリソン大学（ニュー・ブランズウィック州）のエリック・ロス教授が担当する。ロス教授はカナダの歴史地理が専門で、著書「Beyond the River and the Bay」など、多くの論文や著作を発表している。

カナダ研究会が第一回講演会

先に設立された「日本カナダ研究会」は、十二月十一日午前十時から、東京六本木の国際文化会館で第一回研究会を開催する。予定されている講演は次の通り。

研究発表　「最近のカナダ経済史の動向」（木村和男・秋田大学講師）、「両大戦間の加・米経済関係」（飯沢英昭・山形大学講師）、「ルミュー協約改訂とカナダの日本人問題」（外交史料館・原口邦紘氏）、「多民族集団内におけるアイデンティティの模索――仏教会の活動を中心に」（ブディスト・アカデミー・オブ・カナダ・高畑崇導氏）、「〝ニュー・コンフェデレーション〟第三の選択――B・A・ブラウンの構想に関連して」（伊藤勝美・近畿大学助教授）。

公開講座　「カナダ子、ド・トックビル」（エリック・ロス筑波大学教授）、「カナダ文学とノーマン・ベスューン」（平野敬・東大教授）。

B・C州の山〝マンゾー・ナガノ〟と命名

日本人として初めてカナダに移住した永野萬蔵の渡航百周年を記念するため、ブリティッシュ・コロンビア州にある山が「マンゾー・ナガノ」と命名された。この山は日系開拓者が漁労に従事したリバーズ・インレット（バンクーバー北西約四百キロ）の北東に位置し、標高一九五〇メートル。

本紙は、カナダ大使館から二ヵ月に一回発行されます。本紙掲載内容の転用、転載は自由ですが、その際は出典を明らかにして下さい。なお、ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。
東京都港区赤坂七丁目三番三八号
カナダ大使館広報部